

みんなの密

もう一つのロンドンオリンピック

いよいよ今月27日から、4年に一度のオリンピックがロンドンで開催されます。スポーツを通じた人間育成と国際平和が目的とされますが、日本選手の健闘も期待したいですね。

ところで、8月29日から「もう一つのオリンピック」がロンドンで開催されます。それは「ロンドンパラリンピック」です。

「パラリンピック」(Paralympic)は、もとも下半身の不随(paraplegic)+オリンピック(Olympic)の造語で、主に脊髄を負傷した兵士たちのリハビリの一環として始まりました。

その後、出場者も車いす使用者から対象が広がり、アスリートによる競技スポーツへと発展してきました。そこで1985年から、もうひとつの(Parallel)+オリンピックという意味の「パラリンピック」が公式名称になりました。

オリンピック後と同じ場所でパラリンピックを開催することになったのは、1998年のソウル大会以後ですが、実は1964年の東京大会でも、全身体障がい者を対象にした国内大会が同一都市で行われています。こうしてパラリンピックは「もうひとつのオリンピック」として、さらなる発展を続けています。この夏は、選手たちの熱戦に身も心も熱くなりそうですね。

「言い訳せずに、前へ進もう」 乙武洋匡

僕は、何かひとつのことに取り組んでいると、必ず壁に直面するときに訪れます。そんなとき、僕は多くの場合、「女性だから」「もう若くないから」「都心部ではないから」——様々な言い訳を見つけてきては、自分を安心させます。でも、僕は20歳の頃、ひとつだけ自分を約束しました。「言い訳をして逃げる人間にだけは、なるのはやめよう」

なぜなら、僕のすぐ目の前には、みなさんよりもずいぶん見つつけやすいそれだけで説得力バツワンの言い訳が転がっていたからです。

「僕には手足がないので、これではできません」

「車いすの僕に、それは難しいです」
もし、僕がこんなことを言い出したら、きっとみなさん、「うん、うん。そうだよ」と納得しちゃうと思うんです。僕がこのカラダを、この障害を言い訳として使いはじめたら、きっとこの先の人生、何もなくても済んでしまう。だからこそ、どんな困難に直面しても、言い訳をして逃げることはやめようと思ったんです。

どんな苦難にも、逃げることなく立ち向かっていく——ロンドンパラリンピックに出場する選手のみならず、きっとそんな姿勢が学べることを思います。

ロンドンパラリンピックに向けた日本選手の挑戦を伝える「The Road to London」<http://challengers.tv/london/> (NPO法人STANDUP)には、乙武洋匡さんをはじめ、著名な方々の応援メッセージが掲載されています。

問い合わせ

人権推進課 人権教育推進係

☎65-0693 ☎63-4582

甲賀市発行 広報誌

あいごか

平成24年7月1日